

2024年度活動概要

教育問題研究会

2024年度の教育問題研究会の活動について

中心的研究テーマ

- ・英語教職課程における「振り返り」
- ・シティズンシップ育成を目指す英語教育のアプローチ
- ・「中学校へのパスポート」に準拠した「小学校英語言語活動一覧」を用いた実践

上記を中心的なテーマに、月例の研究会活動を12回開催した。

山口と栗原が代表を務める科研では、2023年に行った教職課程における「振り返り」と「異文化」指導に関する全国調査の結果をまとめ、JACET国際大会のシンポジウムで発表した。

山口科研では、昨年度実施の全国調査に続いてフォローアップ調査を行った。その結果、英語科教育法の授業で学生中心の授業を採用している回答者の多くが、模擬授業型のプロジェクト・ワーク及び模擬授業後の省察的グループ・ディスカッションを主に取り入れていることなどが判明した。

栗原科研では、英語授業においてシティズンシップ育成を行っている小・中・高等学校の教師を5名を招いて、実践報告をしていただき、シティズンシップ育成につながる活動の要素を整理した。また、英語絵本を用いたシティズンシップ育成については、清田・中山が小学校や教職課程でそれぞれ実践を重ねた。3月にドイツのミュンスター大学で開催されたLanguage Education for Sustainable Development学会では、清田と中山が研究発表を行った。

米田科研では、SIGメンバー協力者と共に開発した「小学校英語言語活動一覧」を小学校現場で実践し、修正を加え、ほぼ完成した。2025年度は、最終的な見直しと、文化に関する実践を加筆し、出版することを目指している。

言語教育エキスポ2025は、3月2日に、対面、オンライン、ハイブリッドの3形態で行われた。会場は昨年引き続き、中央大学の茗荷谷キャンパスを使用した。申込者は500名を超え、今年も盛況であった。

上記の研究成果の報告として、紙媒体とオンライン（print edition ISSN: 2188-8256/online edition ISSN: 2188-8264）研究会会誌『Language Teacher Education 言語教師教育』Vol. 11 No. 2(2024年8月)とVol. 12(2025年3月)を発行した。

2025年度も、引き続き上記の研究テーマについて、SIGメンバーや協力者と共に研究を継続する予定である。